

複式教育実践講座アンケートの集約表

1 日々の授業を行う時、どのような授業をやろうと考えて実施していますか？(理想の授業)	それにおいて、どのような授業の設計や準備に取り組んでいますか？(普段の授業の改善策)
・少ない発問で、児童が自ら考え深い学びを実践できるような授業	・児童の実態に合った発問を多く用意したり、精選し、授業に臨もうと思っはいますが・・・。
・複式授業での学習リーダーの育成。	・子どもたちだけで話し合って解決していく力。
・児童同士が協力し合い、学びを深めることができる授業。	・間接指導時に何をするのかが視覚でたしかめられる準備。
・「間接指導」中に、自学だけではなく、自分たちで学習をすすめられる授業 ・各単元の導入とまとめを工夫し、見通しをもって取り組むことが出来る授業の構成	小 低：文章(だけ)での記入より絵や図を交えながら考えを表現することで、考えの可視化を図っていく。 教師がリードしながら一人一人の考えを表現させ、学び合いにつなげていく。段階的に子ども同士で学び合いができるよう支援していく。 小 中：自力で解決する力を身に付けさせるために、(複式学級のため)立ち戻る場所を見て行動できる指導が必要。自分の考えを「書く」活動の位置付け。問題解決の思考の過程(自分の考え)が見えるように、ノート指導や板書の工夫が必要。考えを伝え合い互いに学び合う場の設定。 中 12：生徒にとってどんな風にすれば見通しをもてるのか、目的意識をもたせることができるのか、これまでの学習の流れをつかませ、生徒の中で学習が前と後でつながっていくことが必要。ねらいからまとめまでの整合性を図り手立てを明確にした授業設計。
・子どもから問い・願い・思いが生まれ、それを実現するための試行錯誤ができる授業	問い・願い・思いを抱くような環境づくり、子どもが声を出せる環境づくり。
・達成感を得られる授業 ・個別最適化の授業 ・子どもの良さや強みをのばす授業 ・子どもが「楽しい」と思える授業 ・子どもが自分の考えを意欲的に表現できる授業	・適切なアセスメント ・UD 授業 ・特性にマッチした授業 ・子どもの実態に合わせた課題や発問の工夫 ・不必要な緊張感を今ない環境作り ・語彙力を育てながらコミュニケーションを大事にした授業展開の工夫
・間接指導時に児童が自力で課題解決に向かえる授業 ・児童が進んで課題解決に向かえるように明確に指示を出すこと(児童が見通しをもって活動できる授業)	・A IドリルやICTの活用 ・導入段階でゴールの見通しをもたせる ・直接・間接指導を事前に教師が見通しをもっておくこと ・児童同士で課題解決の話し合いができるような仕組みづくり(学習リーダー)

- 子どもたちが主体的に課題を解決していこうとする授業づくり。 - 思考力・判断力・表現力を、授業の中でどう育ていくか、その具体的な実践。	- 明確な課題設定。 - 解いてみたい、できるようになりたいというやる気を引き出す問題づくり。 - 自分の言葉で、その時間の学習内容をまとめる。
- 児童が見通しをもって自分で学習を進めていく授業 - 自分の考えを筋道立てて書いたり話したりする活動がある授業 - 課題解決に向けて児童どうしの係り合いがある授業	- 単元の授業の計画を示したり、1時間の授業の目標を示したりしている。 - 自分で考える時間の確保、交流の時間を設定する。
- 導入からまとめ（振り返り）までを45分で終われるようなタイムマネジメント - 子ども達が自分の考えを表現し、交流し合いながら課題解決に向かう授業 - 主体的に学習を進めることができ、確実に基礎・基本を身につけられる授業	- 間接指導時に子どもたちだけで学習を進められるように、ある程度のパターン化と見通しを十分に持たせてからわたるようにしている。 - 自分の考えを言える場の設定 - 定型的な授業の流れの定着と、自主的に考えられる思考力、判断力の育成
主体的に思考力・判断力・表現力の向上につながる授業	それぞれの進度に沿って進んでいける授業（単元自由進度学習）
- 課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を向上目指す授業 - 課題解決に向け、段階的に知識、技能を身に付けさせ思考力、判断力、表現力の育成につなげていく授業 - 主体的に課題を見つけ、多様な考えを交流し、理解を深める授業 - 児童が課題や疑問に気付き納得できる授業 - 現在担任している児童についてですが、まず学習に向かう気持ちをしっかりもってほしい。どんな授業かはそれからのことだと思う。 - 主体的に進め、何を学ぶか、何を学んだかわかる授業。 - 自分なりの考えを持ち、ノー筆に文や絵で表現したり、説明したりできる授業。	- 書いてまとめ、説明する授業 - 児童の実態把握に努め、柔軟にカリキュラムマネジメントする。 - 分からないを解決していく。 - あまり - 発問の工夫、イメージしやすい教材づくり - 下学年の実定着内容を復習し、理解させる。 - 単元計画の作成と児童への提示 - 発問の工夫
- 児童が自分で学習課題を見つけ、学びを深められる授業 - 子どもが分からないことなどを、子ども同士またはいろいろなやり方をしながら深め、解決している授業 - 主体的に学習に向かう気持ちをもたせられる授業	- 単元の学習の見通しを持ち、学習したことをいかしてできるまとめの活動を定める単元を作っている。 - 考え方、やり方は児童の考え方のみにならないようにすること。 - できないで終わらず、少しでもできた気持ちを持たせること。
- 探究の学びや協働の学びを小規模校でやれたら良い。 - 協力・協働で学びを深めていける活動を取り入れられた授業にしたい。	- 既習事項を復習して、自分たちで学びに向かえる土台作りをしている。 - 子供同士の関わり合い、励まし合いを少しでも取り入れるようにしている。

・児童が確実に知識技能思考力等を身に付けることができる授業。 ・自ら考え、児童同士で深め合い、「わかった」「できた」と振り返ることができる授業	・現状の能力を正しく評価すること。その課題をクリアするために必要な能力。 ・今は特支なので、個に応じた授業づくりが主ですが、思考の時間の確保ができ、ヒントが入ったワークシートなどを作っていきたい。
・子どもが学習した内容が言える授業	・特別支援学級 特に算数で2人で話す機会を作ろうとしています。(僕はこう考える。こういうやり方でやってみた。など)
・児童同士で学習を進められる授業 ・低位の児童でも主体的に学べる授業	・授業のパターン(流れ)を概ね決めてしまう。 ・ヒントを用意しておく。

2 日々の授業でうまくいかないと感じる時、その課題になっていることと理由をお書きください。 (力量向上のために学びたいこと)	課題の具体的な理由
・少人数とはいえ、学力差がある場合の進め方、複複式になりやすい。	・複式の片方をもう一段2つに分けなければ進度や理解が深まらない場合がある。
・複式授業での学習リーダーの育成。	・子どもたちだけで話し合って解決していく力。
・授業中の生徒指導。	・授業中にケンカしてしまう。
・「わたり」と「すらし」 ・他の教職員との共有	・わたり、すらしを考えて指導しているが、両学年で支援が必要な場面が生じる。
・極少人数学級で考えを広げられない ・学年別指導で、準備に時間がかかり十分にできない(教材研究に時間がかかる)	・学年1人の学級で思考の多様性をもたせることに難しさがある
複式学級の直接指導と間接指導のバランス 複式学級での道徳科の授業の指導	・1人学年の道徳科の授業で、多様な考えにふれさせるためにどんなことができればよいか。 ・道徳の学年別指導のわたりとすらしの基本はどのようなものか知りたい。
・直接指導 間接指導での問題 ・指導過程の基本的な4段階の問題	・特に算数は「導入(課題設定から課題把握)+課題解決1」に改善の余地がある。隣の学年が待っており、駆け足でここを消化するので、子どもたちは「何となく分かった」状態で課題解決2や自学タイムに突入する。何となく分かったという状態で離されるので、途中で「???'となることが多い。慌てて追加説明に行くと、もう1つの学年がおさなりになる、というパターンが多い。 ・時間差があるので、「振り返り」が定着しづらい。片方の学年は次の時間のすらしのために課題解決の段階で終わらせたりするので、「まとめ」が弱い。「まとめ」が弱いと本時の定着も当然弱くなる。

以上、小学校

	・生徒が、本時の学習のねらいに達成しているかどうか不安。 ・主体的に学習を進める態度の育成に不安。生徒にとってどんな風にすれば見通しをもてるのか、目的意識をもたせることができるのか。 以上、中学校
・間接指導時や課題解決時の自ら進めていく力の育成。 ・思考力・判断力・表現力をどのように伸ばしていけたらよいか。	・まとめや振り返り、思考の言語化に力を入れているつもりだが、テスト等では伸び悩んでいる。
・対話的な授業づくり ・間接指導時 ・子どもの主体性	・1学年1～3人という少人数の中で、活発な対話的活動を行うのが非常に困難だから。 ・早く終わった子への対応 ・指示されたことはできるが、課題が終わった時の指示待ち
・学年別指導 ・同学年の児童の理解の差と作業時間の差 ・現在担任している児童についてですが、まず学習に向かう気持ちをしっかりもってほしい。どんな授業かはそれからのことだと思う。 ・考えの深まりや広がりがない。	・音楽等組み合わせるのが難しい教科 ・学年の学力差による時間配分差 ・経験不足からくる教科の特性、教材研究の甘さ ・一人はさっさとするが、一人は一人で作業できない。 ・下学年の実定着内容を復習し、理解させる。 ・担学級一人のため、児童どうしの交流の場がないから。
・累計の問題	・個人差が大きい
・子どもの思考が止まった時 ・一人学年の際に思考が進まない時（間接指導）にどのような手立てをとるか。	・人数が少ないので、他の考えも出づらく、ヒントもなかなか入らないことがある。 ・仲間との交流も紙面がICT上の意見、考えとの交流になるので、やりとりができないか、わからない、どうやるのを解決しにくい。
・直接指導、間接指導のバランス ・授業づくりのスリム化	・時間が足りなくなってしまう。 ・授業準備に時間がかかってしまう。
・教材研究不足 準備不足 ・学力差が大きい学級を含む複式学級で、どのように間接指導をしていくのか。	・教材研究や準備の時間が取れていない時は、失敗することが多いと感じています。
・複式の場合、間接指導時の話し合いを教師がどうフォローするか？	
・1人学年の進め方	・一緒に考える人がいない。

その他～授業を行う上で困っていることをお書きください。

- | |
|--|
| ・教科書が考える→教えるに変わってきている気がする。一見考えさせるように見えるが、考えの種類を教えるような内容になっている。 |
| ・一人学年が多く、話し合いや教え合いの機会が少ない。 |
| ・授業準備に時間がかかる |
| ・理科の実験時の複式授業の展開に悩む |
| ・困難な課題へも向かっていこうとする姿勢。 |
| ・一人学年の対話的学び |
| ・タブレットが思うように動かない。 |
| ・多様な考え方が出にくい。 |
| ・粘り強く考えたり、頭の中で考えていることを具現化したり、文で表したりすることに困難さある。理由を付けて話すことが苦手（子どもの手本がない）、工夫することが弱い。 |
| ・話し合いが成立しない。友達とのやりとりをさせてあげられる環境もつくってあげたい。 |
| ・他校と実践を交流したり、同じ学年を持つ授業の悩みを交流することは、明日からの頑張る元気の源になります。小規模校は、同じ学年を持つ授業の話を深めずらい事が悩みでもあります。多忙な毎日の中、時間を生み出し、語り合うことが大切なのではないか、と思います。教師が元気に頑張れることが、子供たちの学力と元気につながる、と改めて感じています。 |
| ・教材研究のための時間が取れない。教師の学びの時間がほしい。 |
| ・一番は指導内容の精選です。 |
| ・考える前に「わかりません」「むり」と言う。 |